

バタフライ方法を運用した施設の内観例

施設:セント・ジョセフズ (アイルランド国ダブリン市シャンキル)

最初の印象

- 1) 色あいが生き活きして、形や主題が様々
(視覚に刺激を)
- 2) 馴染みのある、家庭的雰囲気
(時代性配慮)
- 3) 個人の趣味や好みに関する品々
(趣味の道具、好みの作業など)
- 4) 明るい声掛け
(短く単純で親切な言葉)





廊下のスペースを大事に
自然や生き物とのコミュニケーション



彩を立体的に



明るさに工夫





いつもの家の居間







よくある家の風景を再現

植物、彩、家族や友人





实用的台所





台所の横にある食卓





手作りの空間
コミュニケーション
体験の多様性

大切なことは、目の前
で何かが常に起こって
いること。



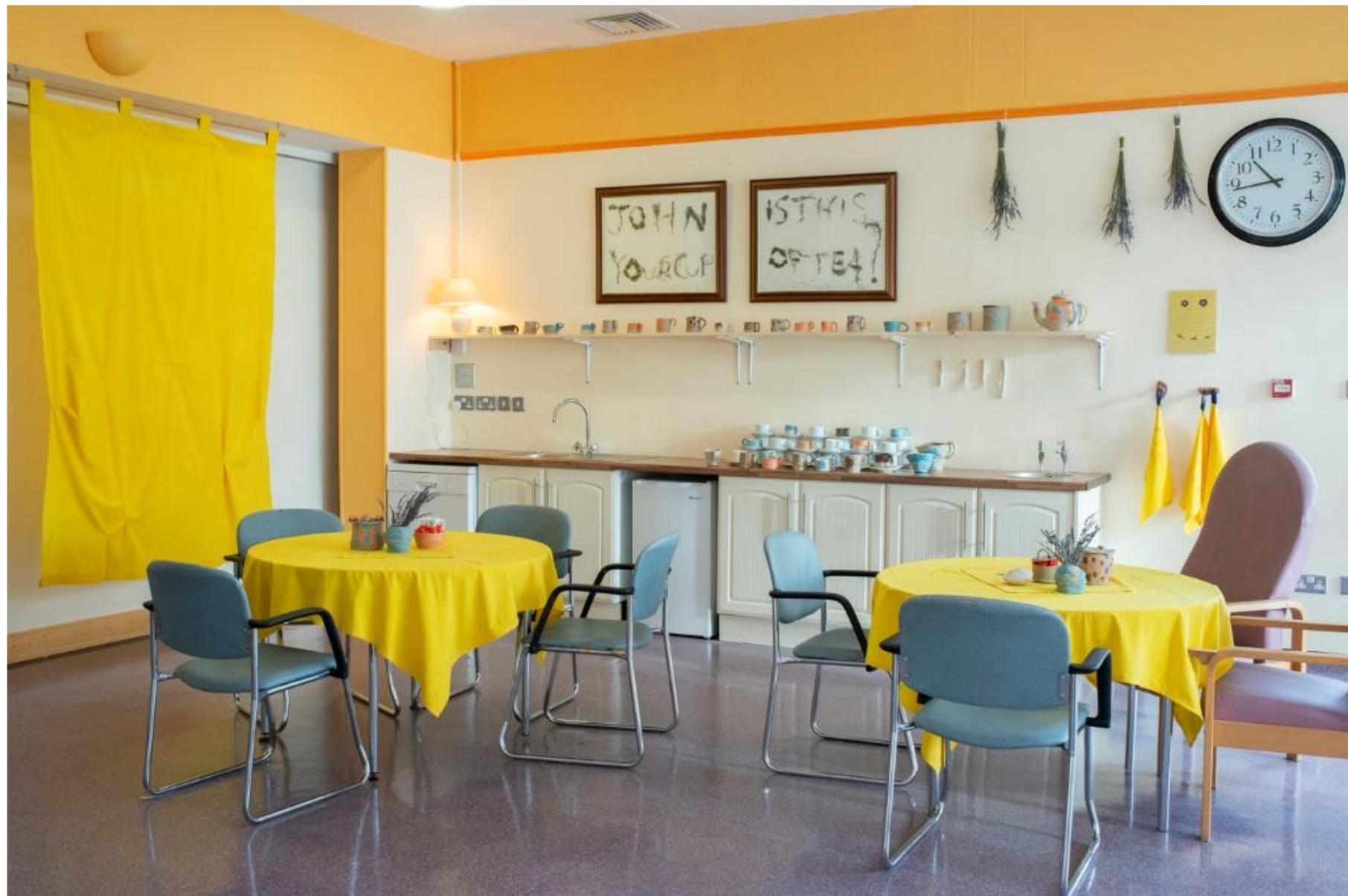
フェアランドコレクティブの
プロジェクト
(藤田を含む4人のアーティスト・グループ)

タイトル
「ジョン、これはあなたのお茶？」
2018年

アート財団からのコミッションで、セ
ントジョセフにて3か月間実施。
リサーチを兼ねて毎週のワーク
ショップを主催。

それぞれの段階の入居者といくつ
かの手作りワークショップを実施。
その成果は、カフェとして共有ス
ペースの一角に展示。入居者と訪
問者など一緒にお茶を飲む空間と
して、今も活用されている。

参加型制作と展示





コイル陶芸

長い紐や丸い形など、作りやすい形を入居者や参加者が作り、形にまとめる。いろいろあって楽しい。作業中に話題がうまれる。





香りのミニクッション

ハーブの入った小さなクッション。いつもはしないお絵かき時間は、ボランティアの方にも人気。入居者も自分で描いてみる。描かないときは、人の手が動くのを見ている。ボランティア同士の笑い声が聞こえる。みんな目が合うと、





生け花は、外で集めてきた色々な季節の草花。花瓶活けが楽しい。きれいなものを楽しく飾る、そのプロセスを楽しむ。会話がでる。昔教えていたことを思い出す。

* 生け花に参加した入居者の一人は、元教師で園芸が大好きな方でした。他の入居者と仲よくできず、いつも怒りっぽいようすでしたが、生け花の時間は、ものすごく楽しそうに、そばにいる人にまで活け方を説明されていました。



五感を使ったワークショップをそれぞれのステージで行った。

- 陶芸
 - 生け花
 - 手作業(刺繍、編み物など)
 - 写真で対話
 - お茶と一緒に、ボランティアやご家族と共に
 - 香りのミニクッション
 - 音楽
 - 運動
- * 何かが常に起こっている環境づくり。参加型。

実践のポイント(藤田の観察記録より)

- 1) 色あいが生き活きして、形や主題が様々 (視覚に刺激を)
いつも見ていたら飽きるのでは? ー毎回忘れるので、いつも新鮮 (‘常識’の刷新)
触れてみる ー移動の途中で立ち止まって触ることもできるような立体的なものもあり。
- 2) 馴染みのある、家庭的雰囲気(時代性配慮)
入居者個人の好みを反映(世代や体験等)
当時の知られた内容(映画スター、出来事)
- 3) 個人の趣味や好みに関係する品々 (趣味の道具、好みの作業など)
家族からの聞き取りを十分に行って、様々に工夫する。
例えば釣りが趣味の場合(壁紙を海や海岸、釣り竿(針なし)、釣りカバン、偽の魚、餌など。)
共通のテーマなども工夫 (家族、食事、旅行など)
活動内容も工夫
コストも手軽なところから
- 4) 明るい声掛け(短く単純で親切な言葉)
介護をする側や家族にとっても、気持ちを前向きに持つ契機となる。SympathyではなくEmpathy。
ボランティアチームの強化
ソーシャル・イベントの活発化(お茶会、音楽の会などで外部の方を招待)
観るだけ、そこにいても刺激 ー保育園児などを招待し、広場で遊ばせる。
介護側にとっても心新たに、明るくなる瞬間

今、ここにいることに意味がある。

人間存在の究極的表現

笑い

ニンマリ、ハハハ、フッフ、ヒヒヒ
これがどれだけ人生にあるか。
認知症ではこの笑顔(情緒と身体
の繋がり)が失われる。



5感をフルにつかって、その瞬間の喜びを生み出すことを大事に
—健常者も要介護者も同じ—
Sympathy(同情)から Empathy(共感)へ

